

(公財) 全国高等学校体育連盟ハンドボール専門部
内規及び申し合わせ事項
(全国高校選抜大会用)

(公財) 全国高等学校体育連盟ハンドボール専門部

2020年4月1日付「2020年度版競技規則書」・「各大会におけるマッチオフィシャル(MO)並びにテクニカルデレゲート(TD)の任務と競技運営に関する事項」・「服装や保護を目的とした装具に関する規定」・「交代地域に持ち込み可能な技術的機器に関するガイドライン」に則り競技を運営いたします。必ず熟読をお願いします。

1 大会参加上の注意

- ①参加登録人数はチーム役員4名(監督1名、役員3名とし引率責任者を含む。また生徒役員は2名までとする。)・選手16名(16名出場可)までとする。ただし、ベンチ入りに際して役員4名及び選手は、(公財)日本ハンドボール協会に登録され(区分は、高校)、大会申込書及びプログラムに記載されている者であること。なおかつ、協会登録証(区分は、高校)を持っていることとする。
- ②参加申し込み後にやむを得ない事情により役員・選手を変更する場合は、必要書類を大会事務局宛に提出しなければならない。
- ③外国人留学生の参加は、大会登録選手16名のうち2名までとし、競技出場は7名中1名とする。
- ④同一学年での出場は1回限りとする。
- ⑤チームを編成する場合は、全日制課程・定時制課程・通信制課程の生徒による混成は認めない。
- ⑥統廃合の対象となる学校については、該当校を含む合同チームによる大会参加を認める。

2 引率責任者及びベンチの任務

- ①大会期間中の言動及び服装は役員として品位と節度あるものとし、ベンチに入る際はスラックス(スカート)あるいはスポーツウエアを着用し、体育館シューズを履くこと。また、チーム役員4名は必ず指定のIDカードを身につけること。また、マスクを着用すること。チーム役員は、相手チームのコートプレーヤーとはっきり区別できる服装とする。
- ②服装について
 - ・ゴールキーパーを除いて長ズボンを使用できない。(変更点ではないが確認)
 - ・アームスリーブはユニフォームの大部分を占めている色と同色であれば使用できる。
 - ・サイクリングパンツも短パンの大部分を占めている色と同色であれば使用できる。
 - ・ふくらはぎの装具は、靴下と同色であること。
 - ・靴下は同じ長さと同色であること。
 - ・足首の装具は、同色でなくても良い。
 - ・肘や膝の装具の色は問わない。
- ③リストバンドについて
 - ・短いリストバンドは粘着性がなく、柔らかく、薄手のものであれば使用できる。
 - ・長いリストバンドはユニフォームの大部分を占めている色と同色であれば使用できる。
- ④肘や膝の装具について
 - ・固い部分がむき出しになっている装具は使用できない。
- ⑤はちまきについて
 - ・ゴムバンド式で薄く幅広くないものは許可します。しかし、はちまきは伸縮性でなく、結び目から垂れた部分が危害を及ぼす可能性があるため、使用不可ではあるが、使用に支障がないと認めれば使用を認める。そのため、試合前のトスで確認し決定する。
- ⑥めがねについて
 - ・スポーツめがねやゴーグルは、スポーツ用のバンドがあり、平らなプラスチックレンズで、フレーム上部がシリコンなど柔らかい材質であれば認める。固いフレームかどうか判断しにくい場合は必ず代表者会議に持参し許可を得ること。
- ⑦ユニフォームの調整がつかない場合は、チーム番号の大きいチームが変更することとする。
- ⑧ゲーム開始前に公式記録用紙に確認のサインをすること。

3 応援について

①コロナウイルス感染症拡大防止のため大きい声での応援は自粛すること。

②チーム横断幕は、ゴールエリアの後方には競技運営に支障があるため、張ることを禁止する。なお、その他の地域においても自チームの試合終了後は速やかに撤去すること。

4 トレーナー及びチームドクター・通訳について

役員（4名）としてベンチに入ることを原則とするが、やむを得ず役員以外として希望する場合は、別紙参加届（役員外）を指定された開催地事務局へ締切日までに提出すること。また、届け出をして許可された者（**1名**）は、本部が指定した席に着席しなければならない。なお、応急処置等はテクニカルデレゲートにチーム責任者が申し出てベンチ後方指定場所で行うこととする。

5 試合開始前、終了後の挨拶について

試合前の挨拶は、コート中央にサイドラインと平行に横一列に並び、ベンチ反対側（観客席）、ベンチに対して礼をして始める。試合終了後は、コート中央にサイドラインと平行に並び、試合開始前と同様の挨拶をし、チーム同士のハイタッチ等を行わない。

6 その他

①突発的事象が発生した場合については、全国高体連専門部の指示に従うこと。

②体育館内の電源を、携帯電話・ビデオのバッテリー充電などに使用しないこと。